杉田町政への本格論議

陸別町議会

定例第二回の陸別町議会は七日に招集され、はじめて杉田町政にたいする本格的な論議をくりひろげました。

この日は開会に先立つて午前十時すぎから議員協議会をひらいて竹内議長からの『定例会の一般質問は通告制にして一議員三問以内として全議員に公平に発言の機会をあたえたあと、三問以上の分についてはあとで質問すること』を申し合せ、矢鋪議員からの『町と議員との請負関係を自粛する』ことについては今会期中に協議することにし、さらに矢鋪議員からの『竹内議長の自民党の党籍離脱を求める』ことについては竹内議長の『このんごは選挙のさい自民党候補への応援演説はせず、議会代表としても社会党などの野党にたいしても陳情してゆく』との弁明を諒承して党籍を離脱しなくてもよいということになりました。

本会議は午前十一時三十分に開会して、会期を九日までの三日間として、杉田町長から上京陳情などの行政報告がこなわれてから、町政執行の基本方針として

一、民生の安定と住民福祉の向上

二、青少年に夢と希望をあたえる町政

三、町民の衆知をあつめて執行にあたる

四、あらゆる可能性を求めて勇気をもつてあたる

重点は過疎対策にかかり、措置法の指定をうけたので振興計画を樹て、町総合開発計画、十勝広域圏計画と併せて対処したい、と各項目にわたつての施政方針を述べ、これにたいする質疑に入りました。

西野議員　ポントマムの畜産センターを従来より脱却して町が運営するというが具体的にききたい、過疎対策について委員会を構成する考えがあるか

林（精）議員　三五線の林道を道々に昇格し野中温泉に入るようにすべきだが一向にすすまない

寺尾議員　過疎化の問題に具体的なものがなければならない、具体的な目安をききたい、畜産センターは経済的にこうなると具体的に示してほしい

池尻議員　産業基盤の診断はどのときにどの部門にするのか

杉田町長　畜産センターの運営は町主体でやり、管理運営の場長は関係機関と相談し、町職員を委嘱してやつてゆく、過疎化対策の実現をはかりたい、診断は林産資源の活用、特産品について診断をうける寺尾議員　答弁になつていない、新町長に町民は大きく期待している、こういうものをとり入れる、こうすれば人口がふえるという具体的なものがなければならない、畜産センターの経済効果をききたい

杉田町長　過疎対策の具体案は現在関係官庁と推進中で、センターは農家の牛だけでなく一般町民にも広く解放して肉牛も検討したい

池尻議員　診断の時期、診断者はどのような人を招くか

杉田町長　こんご充分検討したい

早坂議員　畜産センターは乳牛より肉牛へ移行する場合一般町民に解放するのはよいが、育ててどこへ売るのか具体案をねつてもらいたい、企業誘致が大切だが誘致条例をつくる心要がないか

杉田町長　センターの企業化に前向きにとりくみたい、誘致条例を設けてこんご働きかけたい

渡辺議員　上京して国有林の配材を要請したという林野庁の説明をきいたが

杉田町長　係の方が不在で事務の方に要請してきた

赤川議員　副院長は九日に送別会というが後任はどのようになるか

杉田町長　老人医療の無料化は国、道で検討中で具体化していないが、七十才以上で十月か一月に決定の見込みときくので併せて検討したい

佐々木助役　内定の副院長は六日付で海外へ外務省の関係でゆく、和田先生は満一カ年で慰留した、後任を町村会の医師対策協議会、国保連合会などにあらゆる手を打つているが目安は立つていない

西野議員　ポントマムの畜産センターを従来より脱却して町が運営するというが具体的にききたい

杉田町長　センターの企業化に前向きにとりくみたい、誘致条例を設けてこんご働きかけたい

早坂議員　畜産センターは一日も早く招へいしたい

林（保）議員　病院に付添婦を何名おくのか、医療無料化は六十五才とせねば意味がない、機構改革はどうやるか

西野議員　機構改革の場合全体的な企画、振興の課を考えるか

林（精）議員　企画室長が町長の新しいアイデアを打ち出すべきだ

杉田町長　六十五才が望ましいが予算その他の関係で七十才以上を考えたい

機構改革の問題、不足の補充を議会後早急にやる全体的な関連から企画室を設けるなど将来の展望に立つて改革を行ないたい、付添婦の配置は一名を考えている

（以下次号へ）

議員報酬と三役給与の引き上げを答申

足寄

足寄町特別職報酬等審議会（土田今吉会長）では七日に町長の諮問にたいして

△議長五万五千円（これまで三万四千円）

△副議長四万円（二万八千円）

△委員長三万三千円（二万六千円）

△議員三万円（二万四千円）

△町長二十二万五千円（二十万円）

△助役十六万三千円（十四万五千円）

△収入役十三万五千円（十二万円）

に、それぞれ四月からさかのぼつて引き上げることが望ましいと答申することを決めました。

なお、この答申書には「特別職の報酬等の改訂は管内町村と歩調を合せるべきで、改選直後のこの段階での改訂は適当でない」との少数意見を併記することにしました。

会員334名に

足寄商工会

足寄町商工会の通常総代会は五月十八日午後一時三十分から公民館和室に総代八十名のうち四十七名（委任状とも）が出席してひらかれ前田常務理事の司会により柴田副会長の開会の辞新沼会長のあいさつがあつて議長に加藤満氏を推し、来賓の小林町長、福田支庁商工係長、田中道銀支店長からそれぞれ祝辞があつて議案審議に入りました。

昨年度の事業実績報告によれば、脱退者が十名、加入者が二十三名で会員数は三百三十四名にふえており金融の斡旋による貸付決定は百四十四件、一億九百八十九万円に達し、会の収支決算は八百七十二万六千円プロレス大会特別会計の二百七十二万八千円をいずれも承認しました。

本年度の事業計画としては

一、経営改善対策

経営指導員による金融、税務、経理、経営などの指導、斡旋や各種講習会の開催

二、一般事業対策

商工観光祭、街路灯の設置、駐車場の設置、店舗コンクール、納涼盆踊り

工業診断の実施、青年部婦人部の育成

などに力を入れることにして一千四十二万六千円の収支予算を決定しました。

このために会員の月額会費を一級二百円（百三十二名）二級三百円（七十六名）三級四百円（六十名）四級五百円（十九名）五級六百円（八名）七級九百円（十七名）特級二千円（二名）に改正したほか、婦人部規約を制定しました。

足寄町社協の本年度事業計画

足寄町社会福祉協議会の本年度定例総会は、十五日午後一時すぎから町役場大会議室に会員八十四名（団体もふくめ）中五十三名が出席してひらかれ、三宅会長から『ことしは老人福祉と児童福祉に重点をおいて活動したい』とのあいさつがあり、小林町長から『町政の目的は要するに住民福祉であり、みなさんの努力にたいして敬意を表したい』藤本国夫氏による養護老人ホームについては九月ごろまでにメドをつけたい』とのあいさつがあつて議事に入り、前年度事業報告と決算（百十五万八千円）を上程、松山監事の監査報告があつてこれを承認、本年度の事業計画として

一、低所得者への福祉対策

心配ごと相談所の活動と巡回相談の実施、各種貸付金（世帯更生資金、母子福祉資金、社会福祉金庫など）の活用、法外援後の実施、共同募金運動の推進、才末助け合いの実施

二、母子福祉対策

母子世帯の研修旅行、レクリエーションの援助

三、児童福祉対策

子供会未結成地帯の解消里親会の援護、新聞、牛乳配達少年への激励、季節保育所保母の研修激励費九十万円がふくまれています。

四、老人福祉対策

老人クラブの育成、設備整備、連合会への援助

五、身障者福祉対策

十勝管内身障者スポーツ大会への援助、共同作業場の利用、技術修業の指導

六、組織活動の推進

研究集会の実施、広報の発行、会員の増強による自主財源の拡大

などを決め、これにともなう収支予算二百万八千円と大市に増額となりましたが十カ所の老人クラブへの助成三十二万円と大誉地、相和、茂喜登牛、喜登牛、中足寄、上足寄のクラブ設備費九十万円がふくまれています。

カメラ　上野カメラ堂
八ミリ　上野復興　足寄駅通り　T二五一二
写真材料

新畳　表替　中古畳　ふすま張替
二段ベッド　敷物一式　小林畳店
小林幸三郎　足寄町大通り山口整骨院前　T二四二八

大自然のなかの人工美
―いで湯のふるさと―
観光と保養の　芽登温泉
足寄町芽登　T二八五五

調査　売買　あつせん　管理　分譲
代行　登記　損害保険　代理まで
同和、興和火災保険代理店
北海道免許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T二三四五

家具と建材
信用は最大のサービス
技術と納期を誇る！
家具　建具　製造販売
住宅内装に新建材を！
佐藤家具建材店
足寄駅前　電話二二二一番

初夏の衣料豊富に産地より入荷いたしましたので御高覧下さい。
近日中に夏ものゆかた祭り開催の予定ですので御期待下さい。
そしてその節はお越し下さいますようお願い申し上げます。
株式会社　前田呉服店
足寄駅前商店街　電話二〇二二番

技術に生きる！
―あらゆる電気器具―
テレビ　ラジオ　レコード　ステレオ
有限会社　ミネ・デンキ
足寄劇場前　電話2642番

◎造材　マツカラーチエンソー　スチール　チエンソー　共立　チエンソー
◎造林　イリノ　共立　日立　ロビソ　刈払機
◎建設　日立　マキタ　神鋼　電動工具
日本一造林用当麻の鎌と鉞
別製北の神印カマ造林下打鋸
日本一長運斉各種刃物
機械の修理は迅速低格！　誠実本位！
有限会社　鈴木鋸刃物店
足寄町大通り　T 2307